

ガンコ親父の

昔、ある村に小さな居酒屋があった。店主の松次郎は料理の腕は良いが経営上手とはいえなかった。高価な食材を惜しげもなく使い、手間をいとわない姿勢から、利益など全く出せていなかった。それでも「お客さんが喜んでくれるのなら」と赤字にも明るく前を向いていた。当然、暮らしぶりは質素にならざるを得なかった。それを空の上から見ていた天帝は早速、部下の一人である恵比寿さんを松次郎の居酒屋に派遣した。恵比寿さんは両手に釣り竿と大きな鯛を手にして、松次郎夫婦の前に現れた。「毎日、村人のために頑張っているお前たちに、我が天帝は深く心を動かされた。それで、三回だけ願いが叶うというご褒美をお前たちに与えることになり、私が遣わされたわけや、エヘン」と恵比寿さんは咳払いをした。



その夜、松次郎夫婦は「三つの願い」を何に使うかを話し合ったが、結論が出なかった。翌日、お腹をすかしていた松次郎を見て、「たまには新鮮な鯛の刺身でも食べてもらいたいものだわ」と妻が思わず口にしてしまった。昨日現れた恵比寿さんが美味しそうな鯛を抱えていたことを思い出したのである。すると、鯛がピチピチ跳ねながらテーブルの上に見えた。驚いた松次郎は「鯛をお願いごにするなんて」と妻に不満を言った。しかし、まあ済んだことだし仕方がないので、とりあえず生き締めにしておこうと鯛に手を伸ばした。その瞬間、松次郎は叫んだ。「いタイ！」。鯛が跳ねて尖った背鰭が手首に刺さってしまった。血管が切れたのか、結構な出血だった。青くなつた妻はすぐに「出血を止めてほしい」と願った。するとすぐに血は止まった。二人は大切な二番目の願いも簡単に使ってしまったのだ。さらに、「こんなに活きの良い魚は、俺たちよりお客さんに食べてほしいよな」と松次郎は言った。これは松次郎の心の声でもある。この声が最後の三番目の願いとなってしまったが、惜しいというより、むしろ使い切ったことで心が軽くなった。

奄美黒糖焼酎
しまちゅ伝蔵
でん ぞう

自分が抱えていた立派な鯛を与えた恵比寿さんはその光景を見ていた。なんと、松次郎はその鯛を他人であるお客のために使おうとしているではないか。「もらいタイ」とか「いタイ」とか、冴えない駄洒落ばかりの松次郎たちだが、「利他の心」を持った温かい人間たちだ。大切な三つの願いを『新鮮な鯛をお客さんに提供すること』で使い切ってしまったことを天帝に報告した。そしてこの夫婦にもう一つ特別に「願い」を追加してもらおうように嘆願書を出した。心優しい天帝は即、認めてくれた。

ちょうどその頃、松次郎は晩酌中に『しまちゅ伝蔵』が切れてしまった。もう少し飲みたいものだと思っただけで、目の前にどんと一升瓶が現れた。それを見ていた恵比寿さんは頭を抱えた。せめて四番目の願いくらい、もっと大きな願いに使ったらいいのに。こんなことでは松次郎夫婦は永遠に金持ちにはなれないだろうな、残念だが。しかし、どう見ても松次郎たちは幸せそうだ。それにしても美味しそうに飲んでるな。俺も次に釣る鯛で一杯やろうと恵比寿さんはつぶやき、足早に去っていった。

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界町
鹿児島県

「三つの願い」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。